



Title	朝鮮民俗採集
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Description	昭和 18年 8月起、ノート、 20頁。
Issue Date	1943-08
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77334
Type	manuscript
File Information	D006_01188.pdf



NOTE BOOK

朝鮮民俗採集

昭和十八年八月起

鈴木榮太郎

男世の類と長印の類

世は男と口を新くする不良と云ふ所。ハカオの世の子に道を尋ねては
返事しないのか田舎では普通である。若し一人前の婦人は男に口を新かぬ。
男世に對しては極め無學問なものが多くある。大から百餘戸の世の子
などは中以上の家康へはあやぬ。世の職業として女給を位大かよつ職業と云ふ
所。世は男の家にあぬのみならず、御くすも職能の所。男世の前では
絶對に肌をあやぬ。高山が那の附近の村のわけて水泳して居る、野良に居る女
人かあつて、世か片のの水泳して肌をあやしては何事かと怒りたりと云ふさうであ
る。半島の婦人か内地の鐵湯に行つて三助を正へ色も赤く（たゞ）と云ふ所。
東洋温泉で湯に半島の男が、夜おそく一人入浴して片の内地人の女か、正へ
て赤くして、色を失つて、いかにと云ふ事である。以知石の湯では赤く男世か若
い入浴して、かちかたは、それより村を連ねて、いかにと云ふ事である。半島内には
何れ世の前では男は肌をあやぬ。兄弟でいかにと云ふ事である。何れ
おとなく半島の男は、いかにと云ふ事である。歌世は人前では強いて恥ぢる。
半島内では、夫婦が若く合する事はない。他人（？）は、いかにと云ふ事である。是れは、
合する所。

長印の類については、他人でも五才の上は見、十才の上は見、父に準ずる可い。朝鮮
では年若き花柳風である。地帯では老人はどんなに貧しい地帯の低いところ
若い者に對しては目下を對して、言葉を聞かぬ。夫婦もいかにと云ふ事である。
何事にもいかにと云ふ事である。父は同席して子は叱る。男
は、いかにと云ふ所。父又は若きか、酒タバコを用ひたり。又眼鏡も用ひたり。
父子合する事はない。

物より御く易きは、人なるに異く、肌を食する事な。男大層、幼少は極め、
世に片小は、肌を食す。世に物より食すに、去れ極にたつて、現世のついであり。

○男御の儀要

大抵五十に片小は、常食して御かぬ。子供に任れず。老人に御くは子供
かゝる事あり。嫁か来小は主婦も令了。又、自分も御かぬ。ナレ金
か、片小は、已使いと何人も思ふ。田舎で、五万圓も持て、片小は、已使四人
は使ふ片小。

男御しな、雨地や常民の老人や婦人達は、親先知や、逆先日の祝の行事など
を行ふ。三小は、物事の行事なり。

物事、花女等の出身者は、大抵、妻になつてゐる。物か、なつてよいから。世に、それに出
すのは、その娘が、婦になつて、物御か、なつてよいから。世に、それに出
か、子孫を、はし、なつて、片小。内他人の、物事、他、信、人か、世に、なつて、片小
か、御く、の、と、不、思、御、に、思、片小。物事、は、下、世、下、男、か、多、い。

○ 仁人之所

宗社中のとみ集ちて一宗カンランして食す。初め事は絶世に在り。
 新幹の宗座には親父繁の外に宗族一人くの誕生日の祀が極盛だん
 行けり。より馳走を作り膳を造す。祭事は何もない。
 新幹の宗には夫婦の祀が二祀或は三祀あり。常民では夫婦一祀毎に
 建物(牛舎)が祀になる。同じ忌新内には手本御様あり。然しその夫婦は
 合ふやと若しなへ。男世によつて俗世によつて又たに祀れる。
 延生には男女共に祀れる。ご飯を山盛りして日本人に食はす。若めの
 汁もゆが有る。常民は宗でも知り。新の時ご飯は山盛り、中食
 夕食は左飯煮。時にソーサツを用いる。三合煮こちをうす。
 終るは早い。父や親父の誕生祝には村の人々も招く。子供の
 誕生祝はそれ程盛大にはせぬ。誕生祝は親戚の祀けりの一祝
 で父や母の誕生祝より祀つてもよい。招くは父母かうこは
 招きも多い。しないともよいと申す。招きもよく有る。それの品盛を大
 の大置丁の祝あり。招くのは同族近隣老人等も招く。
 父母が死んで三年已みの内はその置丁の祭が最も盛大に祀つてやう。

朝鮮の民衆

最も尚多な場合には内房一室で、主中に居るものと云う即ち「方」がある。
内房が更に一室を増せば、遊廊を加はす。更に一室を加れば中房（オング
パ）を加はす。

總て主人が居るところが内房である。常例の如く（は）朝鮮の字は内房
と外房（パカパ）（金庫と同義）の二部よりなり。金庫は外に外房は
内。外房は男子の居室、庭を設ける。内房は外房は櫛を置かす
る。内房の一棟をアン（内房の建物）とサング（金庫の建物）に
分れる。

内房外房の外に日使の住居のため大門の横に主室がある事がある。
主室をハンサンパンと云ふ。

板敷の一間が内房にある事がある。然る時や夏涼をみるに用いられ。大庭
と云ふ。廊下と云ふよりサングの物を設けるものにもマと云ふものがある。
マの扶いより内地の文様は相違するものにもマと云ふものがある。
家は宗社の設け方の家である。宗社も若同。木の造り。内庭は外庭は直造
である。庭園が装造を現出する。庭園は宗社中のものである。

世に於ける
徳の徳

徳の徳
徳の徳

年期
初度

三十四丁より、
拙身、
新令多一。
家も持たぬ。
貧乏の子

打の青年篇(カノン)に
治よ。両端はイ
クルの国字に
宗法

来り年富は孝長の原の所なり或は親王祐の宗富治

新はやうぬ
 昔々常民は自易といふを

すゑ小もサろに油くしそ
のへ村ウ地のかんくのしを

一弦之書之
夜々々々月
朝陽何處
い

イ
クムは金華は~~五~~人の字を金か

一、舞
舞
以爲は五十四
今は百三十五匹

雨の日
は昔年
常に乗
へてこ
うかく
橋土に
ゐるの
字に

自來水公司

宿にけり
けりかめ
國字の字
には夕名
おにき
けりく
おにき

甲の宗に一年事しつて乙の宗にとりかへ、
乙の宗に一年事しつて甲の宗にとりかへ、

人の字に
何年しつとめる可し
何年しつとめる可し

老年より、
身體の左よりよくある

五十戸の町数に五人が
（五十以上の）は五

五十九年

五火什者上夏心所
在春、夏、秋、冬、
一年に三三

やゝおぼへず。從順に三人の字でやゝ、常民の

主人は自宋の
七層

たゝな名にほくハクにふニ人月、要抄三の人の

[Faint handwritten notes]

思ふ
新
は
思
ひ
ま
す。
日
も
帯
下
持
て
下
女

下男は（イイ）

下女はハニ
と云ふ

ハ
ン
ナ
ン
グ
と
ハ

下女下男の位を辱をハンナングエと云ふ。下女下男の位を
大抵大門の横に有る。食物は元來から有るを多しと云ふ。
主人の宋から別に附近に宋をもちて有る。ハンナング有る
有る。毎々元來に有る。や作地を有る。有る。有る。有る。
主人の宋で食するはと。物今よりい。母妻は下女として
つかへる。子供は主人の子とて遊ぶ。
ハンナングは昔は世間的に元來につかへる。常民の一般
に有る。

暑夏の初秋には或氏は所帯へ
戸ノハ屠粒を必要とす

邑と邑ぬは同。郡には邑は唯一つ。昔は町場は郡
戸所在地外には有かつた。市坊も邑の才。邑才なき
市は町村市郷にも有し有る。町坊をいふ意はたのは
邑の才。邑には市坊の設置ある。邑には常に市
坊は有る。

執用人——下女の惣、大抵一人者、ハーニの惣

廣島に村の手のあつた人か説いても。金田に説くには
 ない。村手の伝へある。来り宿あり。翌日あり。時
 あり。二三日ありや。人より。

X
年中行事

大正月、小正月

大正月は儀禮的、宗教的である

小正月は巫俗的、民俗的である

神棚をたてる。内庭のモクシ花。

寛政の地神棚。

年一、内庭にはイロリ、新餅は甘戸

新餅のナカ、目も女、な、陸橋、(フタ)

洞窟、男、老人中心。

新夜祭と家祭の同化。

ドンド

月、家、焼く。高き、娘、母、も、す。

共食の行。

甲、ハ、

比、新、西、理、力

和、新、の、と、地、神、的

一、休、新、の、と、地、神、的

和、新、の、と、地、神、的

一、休、新、の、と、地、神、的

一、年、二、回、に

十五、日、満、月、に、行、う

集、会、す。

和、新、の、と、地、神、的

和、新、の、と、地、神、的

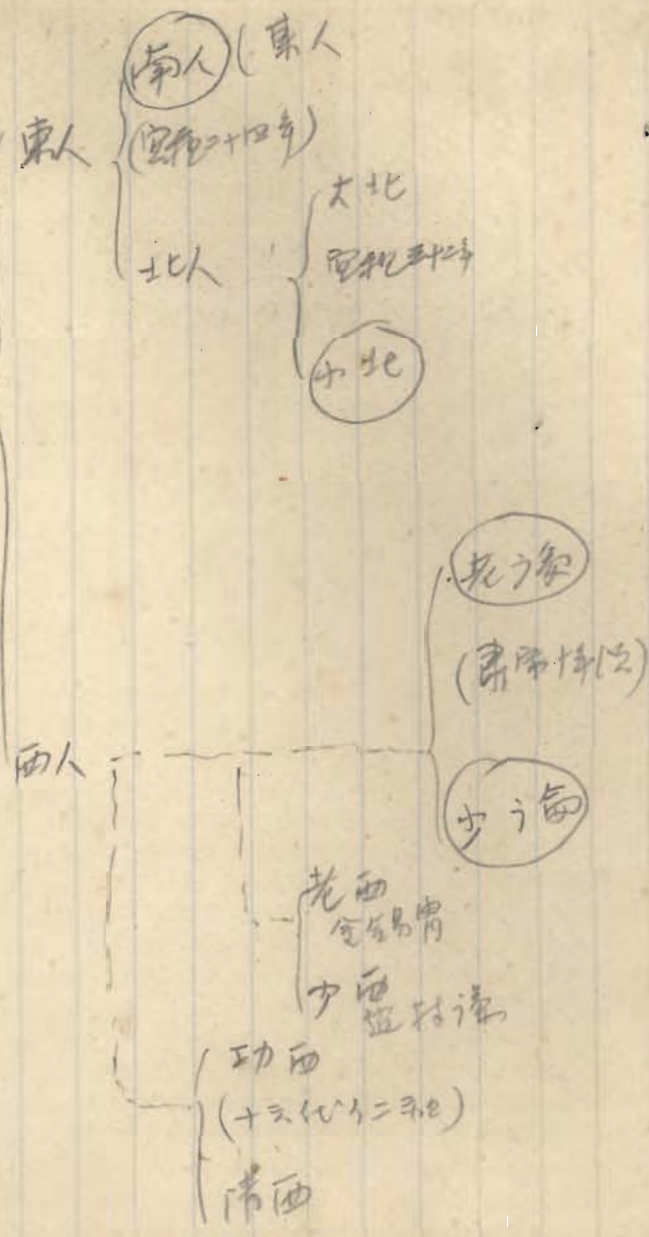
分派は何より

地域
同種
政治

新金三郎

吾人の内容
現存の物は

停林の元名を
停林田色



東西名虎
(西祖の平)

果酒色回には
対峙せし。

神はは竹、拾得として持てた。

一、父母を色を移す、若くは上界
一、三才の祖父、及ん同生の見と色を移す、次上界
一、五才の祖父、外三才の能見と色を移す、中界

ハ域族

28のちの地

X

血柱をみせし。

紅色の雲に居る人は使はす。

雲はさき平色に成鏡は両班少く、白色は他の五道に多し。

慶尚道は雲は成鏡より。南人、雲は流の雲に
忠清道 少く、居城(虎山)を中へに位む。

江原道 老幼、大田院近(昭信)を中へ、雲は雲の雲に
京畿道 老幼、南

全羅道 老幼

即ち、文廟、書院

(中史)一四字

成地館

地方一、仰光、書院

約十年に本、特等、書院、成地館

八域館

和国者、郭新果、清度、分れ、果し

郭新果、郭新の、郭新

即ち、成地館、成地館、成地館

28

ヨモギ、ナ、ネンイ、ケンイ、セリ、

他二種は千ノ丸新箱に在（る）よ、其れはナインとあり。

三上より
録名の元マシ
ナムルと云

切手方札の一枚

新鮮のやぶ月
キヤクコウバツ
 十四日の夜に（夕食に）新鮮飯を食ふ。一宋中、食ふ。何かの厄除
 いである。
 新鮮飯には米の外に新鮮と名のつくものは皆入れず。粟、大豆、
 キン、綠豆、やぶ豆（表は金入り入れぬ）等を入れず。お茶には山芋菜の
 あつたけを入る。九折かすりのものを入る。この菜の汁も とめる。
 山芋には平かおや、大根の葉の子しんもの、ワケビ、トろ牛、大根、
 モヤシ、その他を入る。あまり太敷か白湯はこくとする。品や限ら
 ね又は十で飽く。

執事のやむ日
 十四日の夜に（夕食に）
 執事^{キヤグ}の飯^{コウ}を食ふ。一室中、食ふ。何かの巨骸

71
3
0

雜穀
穀類
米
外
穀類
及
のつくよは
略
入
粟
大豆

[illegible]

考たけ入小。九挺のよを入小。この菓のすも

山薬に平力おき、大根の葉のチレ、トろ、大根

モヤシ 出た他を丁作。あまの太鼓かきつ木はニクと云ふ。品々

九又十分之九

新暦には次の如き日の何かが行ふかある。

一月一日	
二月二日	
三月三日	
四月四日	
五月五日	端午
六月六日	洗頭
七月七日	七夕
八月八日	
九月九日	

四名節、正朔（一月一日）

寒食（三月の清明の次の日）

秋夕（八月十五日）

新暦の十月十五日の行す

ボルイ松松飯

一十月十九七八五四三二一

秋百中
夕中

德六年漢河江野
掘涿洞重郭魯魯

(卯 十 斤)

Q

此書よりしてはタンバイの外は
チンバウとよの北官者の偽の

美生永助

朝鮮

人口問題



1331万3417人

明治43年末

13313067人

昭和8年末

2079万14321人

朝鮮人略号

2020万54591人

男

11058万14541人 103.6人

女

1020万97780人 100

現在増加率の推計人口

大正13年

昭和8年

平均一箇年人口増加率

0.015070534

十一年后

24147819

二十年后

28046354

三十年后

32573965

四十年后

37832838

五十年后

43940504人

禮典

1.

家礼輯覽

宣祖朝の文臣 金長生(号沙溪)の編。

後考案已亥の刊行

喪禮備考

沙溪金長生の 塾師申益慶の編

仁祖267の刊行

四礼便覽

肅宗朝の文臣李 彦謙(号陶菴)の編案

十年刊行

礼記の

家礼即朱子 家訓 其の文礼也

一級

[illegible]

王
羅行
錦忠政史考